

勉強が進んだのになあ。今は進むことができない。困ったなあ。このままでは、医者になるのは無理だ。どうすれば、いいのかわか。

学問が進まなくなった了佐は、『何かよい方法はないだろうか』と、考えました。しかし、困っていたのは、了佐一人だけではありません。何人かの若い武士たちも、学問を習っていたからです。

⑤ そのうちに、お殿様に申し出て、近江の先生の所へ行つて、学問を習う若者が、次々と出てきました。



了佐「父上、私も近江へ行かせてください。勉強を続けたいのです。このままでは医者になれません。」

父「近江にわざわざ行つても、医者になれるかどうか、分からないではないか。それに、近江は遠い。金もたくさん必要だ。ほかの仕事を考えてなさい。」

了佐「父上、一生のお願いです。」

父「だめだ。ゆるさぬ。」

⑥ 了佐は、この後も、近江へ行くことを頼み続けました。父は、何年たつてもあきらめない了佐に、困っていました。

父「了佐、何かほかの仕事は見つからぬか。」

了佐「父上、私は一生懸命、考えて

きました。しかし、どうしても医者になりたいのです。」

父「了佐も分かっていると思うが、色々な病気を治すためには、たくさんのお金を学ばなければならぬ。お前には、無理だ。」



了佐「先生は、いつも、『一心に努力すれば、力がつく』と、言われました。私には、こつこつがんばる心だけは、人一倍あります。父上、一生のお願いです。先生の所へ行かせてください。」

父「どうしてもあきらめぬというのか。よし分かった。しかし、先生に『見込みがない、医者になるのは無理だ』と言われたら、すぐに大洲に戻るのだぞ。」

了佐「はい、分かりました。父上、ありがとうございます。さっそく、先生の所へ、手紙を出します。」

⑦ 五年目に、ようやく父のゆるしを得た了佐は、はりきつて、近江の小川村にやって来たのです。

了佐「先生、大野了佐です。ようやく、父のゆるしを得て、来ることができました。」

先生「おお、了佐か。とうとう父上が承知されたのだな。よかつたなあ。了佐は、医者力を付けてるまで、とことん、ここぞががんばりな

さい。」

了佐「先生、よろしくお願ひします。」



先生は、了佐を温かく迎えました。が、医学の教え方は、ふ

つうのやり方では、無理だと考えていました。了佐を一人前の医者にするためには、くわしい医学書がいります。しかし、了佐が読めるような本はありません。そこで、分かりやすい本を、自分で書くことにしました。本屋から、日本だけでなく、中国の医学書も買い、了佐のための医学書『捷徑医筈（しようけいせん）』の本書きが始められたのです。

⑧ 今日、小川村で、了佐が初めて医学を習う日です。先生は、教えたい内容の教書が五枚書けたので、了佐の下宿に使いを出し、習いに来るよう伝えました。

了佐「先生、習いに来ました。よろしくお願ひします。」

先生「今日から、始めることにした。了佐、これが今日の教書だ。分からないことは遠慮なく、たずねなさい。」

了佐は、教書を見て驚きました。医学の内容は、先生の筆で、一字一字書かれたものでした。



了佐「先生、私のために書いてくださったのですか。」

先生「そうだ、この方法が、了佐が医者になる近道であると考えただ。分かりやすく書いてある。これをよく学び、全部覚えなさい。私は、了佐の学問が進めば、次々と書くつもりだ。ともにがんばろうではないか。」

了佐「忙しい先生が、私のために一枚一枚書いてくださるのですか。私は何という幸せ者でしょうか。もったいないことです。ありがとうございます。」

了佐は、涙ぐみながら心からお礼を言い、先生が書いた教書を受け取りました。

⑨ 了佐は、熱心に勉強しました。分かりやすく書いてありましたが、分らない時は、何度も先生の所へ行きました。このころの先生は、門弟たちに講義をし、また、自分の学問をまとめて本にするなど、毎日、大変忙しい生活でした。その上、了佐のために教書を書き始めたので、夜遅くまで起きて仕事をする日が続きました。そんなある日、門弟たちがひそひそ話し合っています。



門弟1「このごろ先生は、夜中まで仕事をしておられるぞ。」